

《茨城支部ニュース・レター》

平成 25 年 10 月 27 日(日)に、本年度、第 2 回資格更新研修会（公開講座）が行われました。

場 所：つくば国際会議場（エポカルつくば）
演 題：「言語聴覚士の業務と発達障害のあるお子さんとのかかわり方」
講 師：言語聴覚士 森悦子先生，石田恵美先生，千本恵子先生
参加者：会員 25 名 一般 27 名

つくば市内で仕事をしている言語聴覚士 3 名の先生方より
貴重なお話をいただきました。

【森悦子先生】

- 言語聴覚士としての仕事について以下のようなお話がありました。
 - ・言語聴覚士の仕事：「コミュニケーション障害」と「摂食・嚥下障害」に関すること
 - ・成人の対応場面が一番多い
- 発達性読み書き障害の子ども達について以下のようなお話がありました。
 - ・読み障害があれば書き障害がついてくる。
 - ・介入として、読んだり書いたりする負荷を減らす。他。

【石田恵美先生】

- 聴覚障害児への教室での配慮や学習支援についてのお話がありました。
 - ・補聴器は雑音も増幅され、視力に対するメガネほど効果的なものではない。
 - ・1音ずつ区切ってゆっくり話すと、かえって伝わりにくい。他
 - ソーシャルスキルトレーニング
 - ・できるだけ 2～3 歳のうちに来てもらう。座る、人の話が聞ける、といったことがまず大事。
 - ・グループにはできるだけ女の子を入れたほうが、やわらかい空気になりよい。
- その他、言語発達遅滞や自閉症スペクトラムの子ども達についてお話がありました。

【千本恵子先生】

- 吃音のことについて基礎知識から対応まで以下のお話がありました。
- ①語の一部や語音の繰り返し②引き伸ばし③詰まって言葉が出ない。
 - ①～③と重症度が上がる。
 - ・子ども達は大変つらい状況になる。
 - ・走って行って声を出す。じだんだふみながら声を出す。
 - 吃音に配慮が必要な時期があること
 - ・発吃 2～3 歳・入学 悪化要因（環境の激変）
 - ・2 年生の九九 卒業の呼びかけ・思春期 就職時
 - 対応・幼児は自然治癒，流暢性を育てることが大切である，とのことでした。

具体的な事例も挙げられ，分かりやすい内容でした。
また，最後は就学の問題から，具体的な学校現場の事例まで，
質問がたくさん上がりました。一つ一つに丁寧にお答えいただき，
大変現場の役に立つ内容が，盛りだくさんの研修でした。

次回，第 3 回研修会（公開講座）は，1 月 26 日（日）に，
医師をお招きし，講演会を行う予定です。

河村要和 motoka@mx4.ttcn.ne.jp